

# 岩村の碑

## 飯倉を歩く

最近、豊栄小学校の開校に  
関係した岩村成績いわむらみせきについての  
問い合わせがありました。

岩村が1871(明治4)  
年、飯倉村(豊栄地区)に開  
いた「時習塾」という私塾が、  
73(明治6)年12月、県の許  
可を得て「飯倉学校」として  
開校しました。これが豊栄小  
の前身で、市域では3番目の  
開校でした。

その経過は、73年8月に岩  
村塾の生徒の試験があり、結  
果が良かったので飯倉村や貝  
塚村(豊栄地区)、母子村(横  
芝光町)など近隣の有力者や  
村民から寄付金を集め、同年

12月に時習塾での開校となっ  
たものでした。75(明治8)  
年には教場を飯倉・千手院の  
本堂に移し、生徒も70人を数  
えました。

岩村は江戸時代後期、江戸  
で生まれ昌平しやうへい塾ともよばれる  
幕府の学問所・昌平坂学問所  
で学んだ後、旗本・池田氏に  
仕えました。池田氏は旧八日  
市場市域に7か村の知行地が  
あり、飯倉村も含まれていま  
した。

岩村は、68(明治元)年か  
ら翌年にかけての戊辰戦争の  
際には、幕府軍に加わり各地  
を転戦、最後は北海道に渡っ



豊栄小学校隣接地に建つ「岩村の碑」

たとされています。

戦争終結後、北海道を脱出  
した岩村は父と共に池田氏の  
旧領地・南山崎村(吉田地区)  
の林伝兵衛宅にいったん身を  
寄せた後、飯倉村に移り住ん  
だと言われています。

幕末から明治維新の混乱の  
中で、上京して国のために働  
くことを勧められたものの、  
およそ20年間飯倉村で地域の  
子どもたちの教育に尽くし、  
94(明治27)年61歳で亡くな  
りました。

今回の問い合わせは、幕末  
史を調査研究している人から  
のもので、明治以降の岩村の  
足跡をたどりたいとのことで  
した。

案内した墓は飯倉・西ノ内  
の共同墓地にあり、碑は97(明  
治30)年、千手院境内に建て  
られました。その後、旧豊栄  
中学校跡地、さらに現在は豊  
栄小の隣接地に移されました。  
没後四十数年を経た19  
40(昭和15)年、豊栄村で  
は岩村の旧宅地跡に「時習塾  
址」の碑を建て、その功績を  
たたえました。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080